

モニターの

# 注目

今回のモニターのページは、小寺佳子さんの登場です。小寺さんは、二十四年間住み慣れたこの笠岡の人口減少に注目。若者の目から見た笠岡の活性化について考えてくれました。

## 活気のある笠岡を!!

最近、笠岡に活気がなくなつたと皆さんは思いませんか?! 私は二十四年間、笠岡に住んでいます、生まれた頃に比べて随分変わったなあって、つくづく感じます。

例えば、金浦地区で行われる土曜夜市や花火大会などのイベントでは、私が小さな頃は、すれ違うことができないくらいの人混みで混雑していたのに、今はどうでしょう?! 夜店の数は激減したし、土曜夜市は、当時に比べて開催期間が短くなりました。

## 人口の減少

そこで私は、なぜ、このようになつたか自分なりに考えてみました。

それには、笠岡市の人口の減少が、関係していると思います。

笠岡市の人口推移を見てみると、昭和三十年代に七万を超え、ピークを迎えています。平成元年には約六万人、平成十五年には五万八千人台まで落ち込んでいます。

特に、進学や就職のための

## 笠岡市の住民登録人口

各年3月31日現在

年次	人口
昭和28年	49,582
昭和35年	73,232
昭和45年	63,691
昭和55年	63,303
平成元年	60,804
平成13年	59,757
平成15年	58,833

転出で、これから笠岡を支えていく世代が、減少していること。私の同級生の大半は、高校を卒業した後、県外の大いに進学し、そのまま就職してしまうケースがほとんど。大学を卒業して、帰ってきても地元就職をする人は、ごく僅かです。

その理由には、笠岡に魅力ある企業が少ないことや、市自体が学生たちに対し、就職を支援してくれないことなどが挙げられます。

さらに、出生率の低下も深刻です。これは、笠岡市だけの問題ではなく、日本全体の問題ですが…。

先日、新聞で平成十五年の「人口動態統計」を発表した記事を見ました。これによる

と、一人の女性が一生に生む子どもの数に相当する合計特殊出生率が、過去最低の1.29に低下し、また、出生数も前年比約三万人減の約一二万四〇〇〇人に落ち込んだそうです。

## これからの笠岡のために

政府は昨年、少子化対策の行動計画作りを義務つけた「次世代育成支援対策推進法」を制定し、笠岡市では、平成十六年度中に行動計画を策定することとしています。

子どもたちは、笠岡の将来を担う大切な存在です。そのためにも、その親が安心して子育てができるような笠岡になつてほしいです。

また、笠岡の活性化の鍵を握るのは、干拓地の有効活用だと思っています。今の干拓地は、農業目的でしか利用できないのですが、現在、市を中心にその多目的利用に向けて、

動きが活発化していると聞いています。

あの広大な土地に企業誘致をしたり、例えば干拓の農産物を使った地場産業の育成などができれば、私たちと同時代の人たちの労働力を生かす場として最適なのではないでしょうか。

私はもし、転勤などで、笠岡から引越しても、「笠岡にまた帰りたい!」という街になつて欲しいです。

そのためにも、市政モニターの一人として、笠岡市の活性化や住みよいまちづくりに協力していきたいと思えます。



このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。お便り: 〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一―

まちづくり推進課モニター係

☎ 21110 FAX 21180